

農家目線で産地を活性化「めざせ五億円いちご産地」

～浦河町、様似町の新規参入者の定着支援～

(課題番号 6)

◆活動年次：令和2年度

◆対象：JAひだか東 就農1～2年目の夏秋どりいちご栽培者 9戸

1 課題の背景

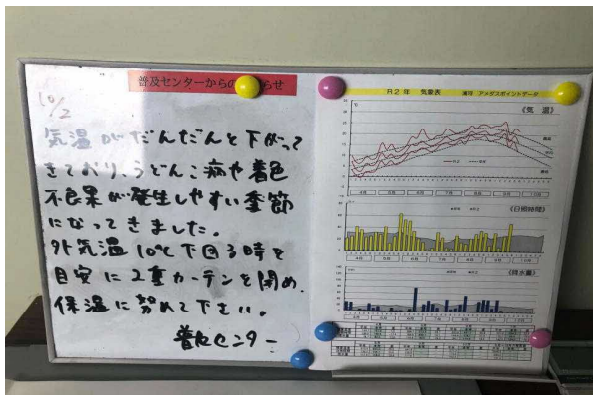
新規就農1～2年目は販売実績がなく、経営が不安定である。新規参入者の定着を目的に、就農計画の収量目標を達成し、経営の安定化を図る。

2 活動の経過

個別巡回を定期的に行い、見本を示しながら基本栽培技術を指導した。また、共選場にホワイトボードを掲示し、タイムリーな情報提供を行った。

活動の経過

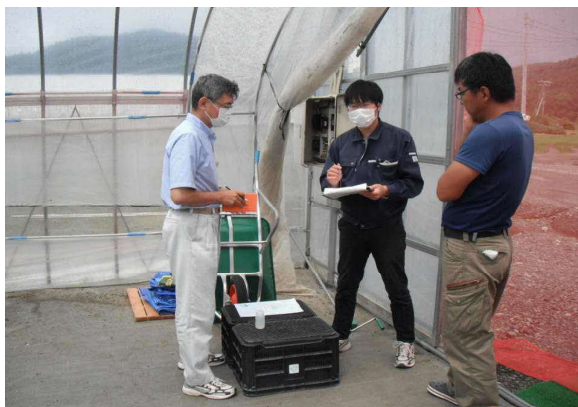
時期	方法	回数	主な内容
1月	座学講習	1回	基本栽培技術、病虫害対策
2～11月	個別巡回	延べ40回	基本栽培技術、秋季収量向上技術、病虫害の見方と防除、生育調査
7～10月	ホワイトボードの記載	延べ12回	病虫害防除、秋季収量向上技術、温度・肥培管理



いちご共選場に掲示したタイムリー情報



病虫害の見方と防除指導



栽培管理状況の聞き取り



生育調査による生育状況確認

3 活動の成果

(1) 基本栽培技術の習得・向上

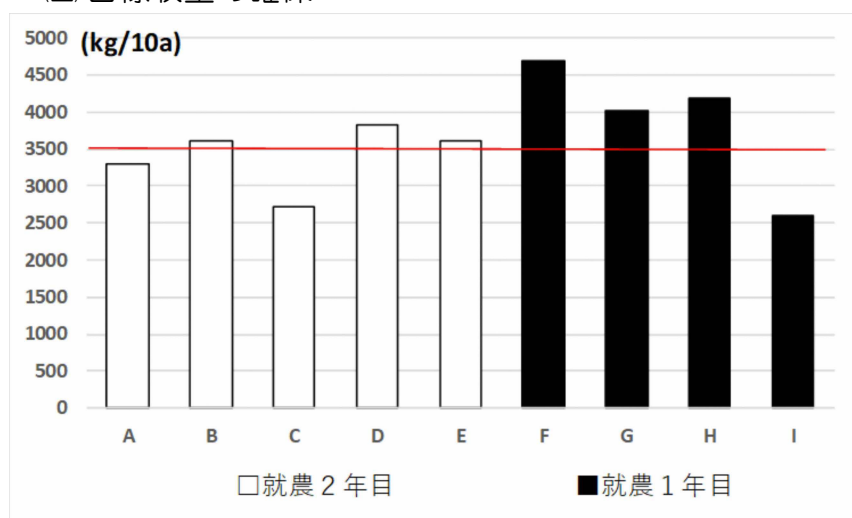
① 生育状況を数字で示すことで、目標とする生育に到達しているかの判断材料となった。

② 病害虫の適期防除やローテーション防除に対する意識向上が図られた。

実際に営農し始めて、不安なことばかりだったが、助言により客観的に判断することができ、安心した。

病害虫は早期発見、初期防除が重要だと改めて感じた。

(2) 目標収量の確保



各農業者の10aあたり収量



基本技術を適期に実践できれば、収量は確保できることが実感できた。

① 新規就農1年目の3戸が目標の3.5t/10aを達成した。

農業者としての自信につながった。

② 就農2年目の4戸は、目標の4.0t/10aを達成できなかったが、1年目の収量目標（3.5 t / 10a）や地域の平均収量（3.0t/10a）は確保できている。

今後の基本技術・適期作業実践で目標収量の達成が期待できる。

4 今後の対応

引き続き、就農5年目以内の新規参入者の収量が3.5 t / 10a（地域の目標収量）以上を維持できるように支援を行う。